

ラボ・センター紹介

ソーシャルデザインセンター (SDC, Social Design Center)

担当教員: 前野隆司 研究科委員長 教授

はじめに

複雑化した社会課題を解決するために、行政・企業・大学・市民といった多様な担い手が、課題解決プロセス(マルチステークホルダープロセス)に参加し、「協働」を通じて、新しい社会を創造していくことを、私たちは「ソーシャルデザイン」と呼んでいます。この実践プラットフォームとして2010年4月に立ち上げたソーシャルデザインセンター (SDC) における2つの事例をご紹介します。

事例1: マルチステークホルダー価値創造プロジェクト

SDCでは、広告代理店博報堂等と連携し、社会課題を起点としたマルチステークホルダーによる価値創造プロジェクトを実施しています。現在、大きく2つのプロジェクトが始動しています。

1つめが『フードロス・チャレンジ・プロジェクト』です。これまでスタディツアーやワークショップを実施し、参加企業等が自らの行動を変えるヒントや新たなビジネス創出の機会を提供してきました。(関連サイト:<http://foodlosschallenge.com/>)

2つめが『未来教育会議』です。本年3月にキックオフシンポジウムを開催し、企業・行政・NPO・学校関係者ら250名もの方々と問題意識を共有したところです。今後は、国内外のスタディツアーを実施するとともに、本質的な課題の探索を実践していく予定です。(関連サイト:<http://miraikk.jp/>)



**FOODLOSS
CHALLENGE
PROJECT**

フードロス・チャレンジプロジェクトロゴ



未来教育会議

未来教育会議ロゴ



スタディツアーの様子



ワークショップの様子

事例2: 慶應SDM・小布施ソーシャルデザインセンター

2014年度より小布施町役場に「慶應SDM・小布施ソーシャルデザインセンター」(正式名称SDM研究所ソーシャルデザインセンター小布施オフィス)を開設しました。今後は、様々な人々との協創のもと、小布施若者会議・小布施サマースクール・地域の未来作り会議の運営や、新規ビジネス、幸せな地域づくり等の実践的研究・活動を行っていく予定です。



オフィスの前にて

(左から、東大小泉教授、林特任教授、前野委員長、市村町長、中嶋特別招聘教授、大宮研究員)



書籍紹介

『経営工学のためのシステムズアプローチ』



グローバル化など経営環境が複雑になる中、全体を俯瞰して物事を捉えるシステム思考経営が求められている。そこで本書は、システムズアプローチの方法論を解説し、複雑な経営課題に対する体系的思考力と体系的解決力とを同時に身に付けることを目的として書かれた。著者はSDM研究科の中野冠教授と湊宣明准教授であり、本書は、SDMにおける授業経験を活かし、経営工学、システム工学、経営管理の学部と大学院の教科書あるいは副読本として、また管理者あるいは管理者を目指す社会人の自己啓発書として書かれた学習書である。

第I部では、システムの定義から始まり、ビジネスをシステムとしてとらえること、多原理融合型アプローチを用いることの重要性を議論したうえで、システム思考の基本的な方法論を学ぶ。第II部は、ビジネスの隠れた問題や原因を

利害関係者が体系的に整理して理解できるようにする方法論と、システムとしてのビジネスを定量的に分析・評価するための技法を解説している。第III部は、経営戦略、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理、サプライチェーン、ビジネスプロセス改革などの企業活動において、システムズアプローチがどのように効果的に応用されるかを紹介している。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management